

# 会報 高鷲の文化財

## 高鷲町にある指定文化財

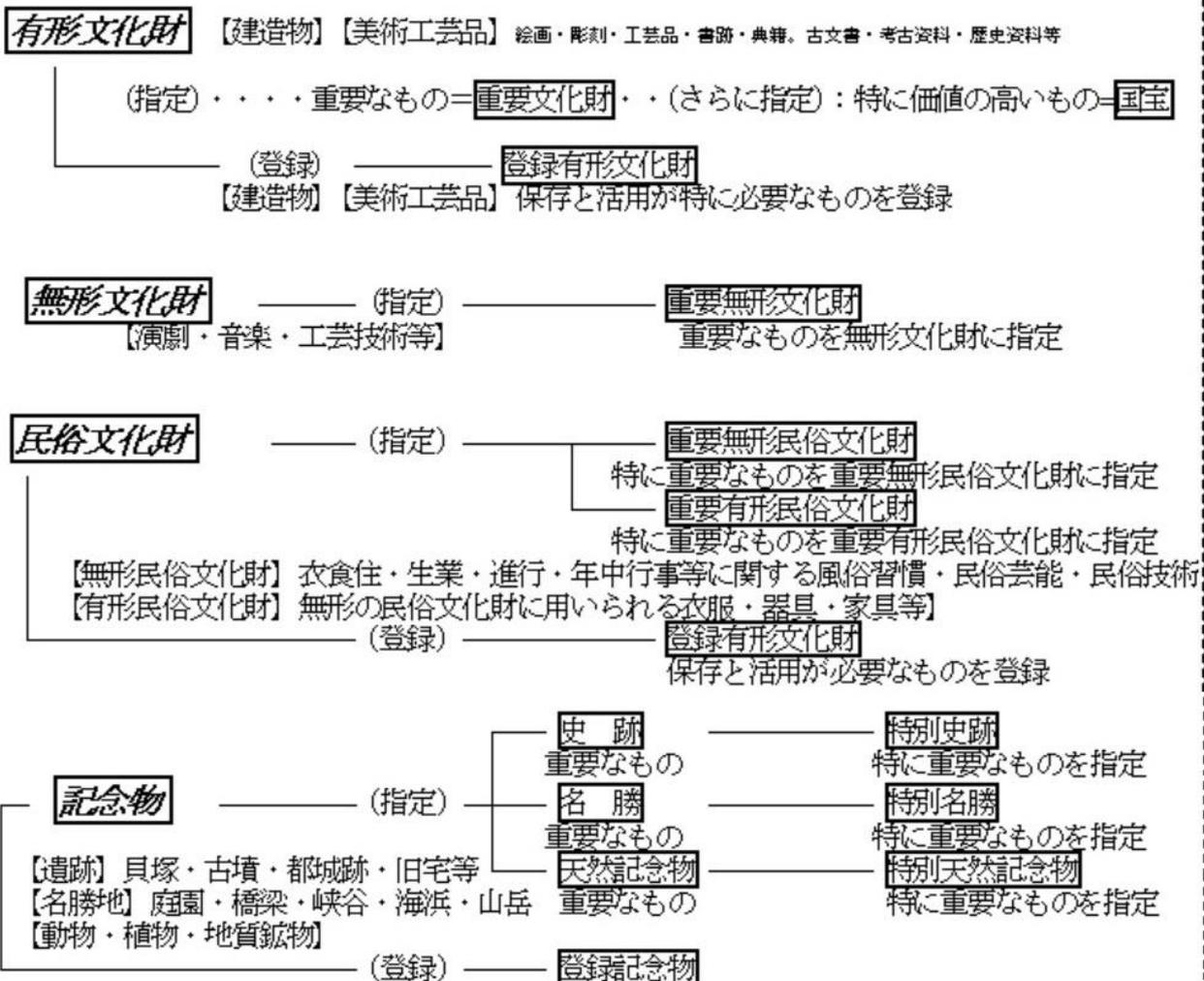
郡上市高鷲文化財保護協会

国・県・市指定文化財の内、高鷲町内にある文化財を紹介し、会員の皆様に郷土の文化のすばらしさと誇りを知ってもらい、また若い人に高鷲町の文化財を伝えるために作成した。

なお、参考文献として①『高鷲村の文化財』平成5年3月31日発行、②『高鷲村史』『続高鷲村史』③『ふるさとをゆく』郡上郡教育振興会1999年発行を参考とした。

( 馬淵旻修 記 )

### 文化財の種類



**伝統的建造物群**

市町村が  
条例等により決定

**伝統的建造物群保存地区**

市町村の  
申出に基づき選定

【周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している  
伝統的な建造物群】  
宿場町・城下町・農漁村等

**重要伝統的建造物群保存地区**  
わが国にとって価値が特に高いもの

**文化財の保存技術**

〔選定〕

**選定保存技術**

【文化財の保存に必要な材料制作、保存の措置を講ずる必要があるものを選定保存技術として選定  
修理、修復の技術等】

**埋蔵文化財**

## 市指定有形文化財(建造物) 薬師堂

昭和57年1月29日指定 鷲見白山神社所有  
高鷲町鷲見

県道452号線教願寺北側に木造萱葺の薬師堂がある。江戸時代中期に創建されたといわれ、仏像・燈籠・狛犬・絵馬などが残されている。平成9年に大規模な修理が行われた。

修繕された鷲見の薬師堂



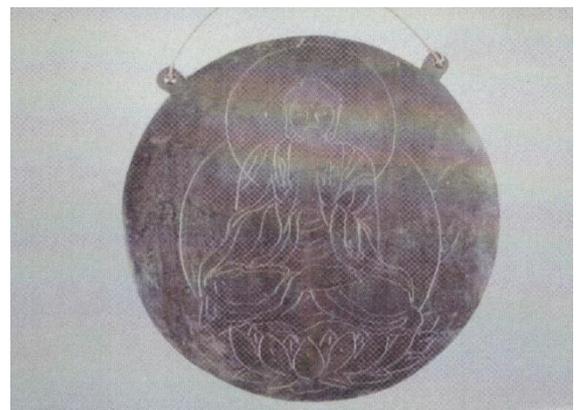
## 県指定有形文化財(工芸品) 白山神社の懸仏

昭和60年3月8日指定 大鷲白山神社所有 高鷲町大鷲

大鷲白山神社には鎌倉時代から室町時代に作られたとみられる懸仏が48体余保存されている。中には永仁元(1294)癸巳年記銘の線刻阿弥陀如来懸仏もあり、市内美並町にある那比新宮神社にある懸仏と同様に貴重なものである。【調査】【35号】



大鷲白山神社全景



線刻阿弥陀如来 懸仏

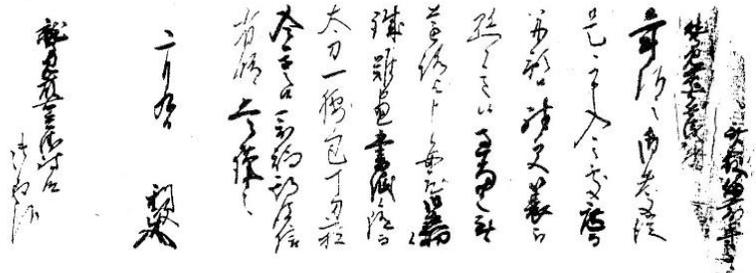
## 市指定有形文化財(古文書) 齋藤氏関係

### 鷺見家文書

平成7年12月21日 鷺見 尚武 氏所有 高鷺町大鷺

齋藤道三より鷺見藤右衛門尉と鷺見藤兵衛尉に出した書状二通がある。鷺見氏から箆を送ってもらったお礼状で利政の花押がある。切封上書きに齋藤新九郎利政とあり、之は齋藤道三の書状である。箆をこんな遠方より送り届けたということは、当時箆は大変貴重なものであったと思われる。特に高鷺で作られた箆は材質、技術に優れ、道三は大変喜んで使用したと思われる。

その他齋藤氏関係書状の中には、木下利忠や齋藤利茂からの鷺見氏への書状などもある。



【[齋藤道三手紙](#)】

【[天文年間の手紙](#)】

齋藤道三からの書状(一部)

## 市指定有形文化財(古文書) 鷺見大鑑

平成7年12月21日 碓 孝司 氏所有 高鷺町鷺見

鷺見氏の系図、鷺見氏来村に関わりのある鷺退治のこと、鷺見氏の活動のあらまし、朝鮮出陣のこと、長門守料理のことなどが書かれている。特に鷺退治の箇所は後に濃北一覧の著者、小川休和がこれをもとに鷺狩りの伝説（高鷺の文化財伝説編にて紹介）を書き一般に知られるようになった。

鷺見大鑑は文末に、●保花押があり写置とある。年代は分からない。朝鮮出陣のことが書かれているので慶長年間（1600年）以降であることは確かである。なお、●保は、森保でないだろうか。



【[鷺見大鑑原文と翻刻](#)】

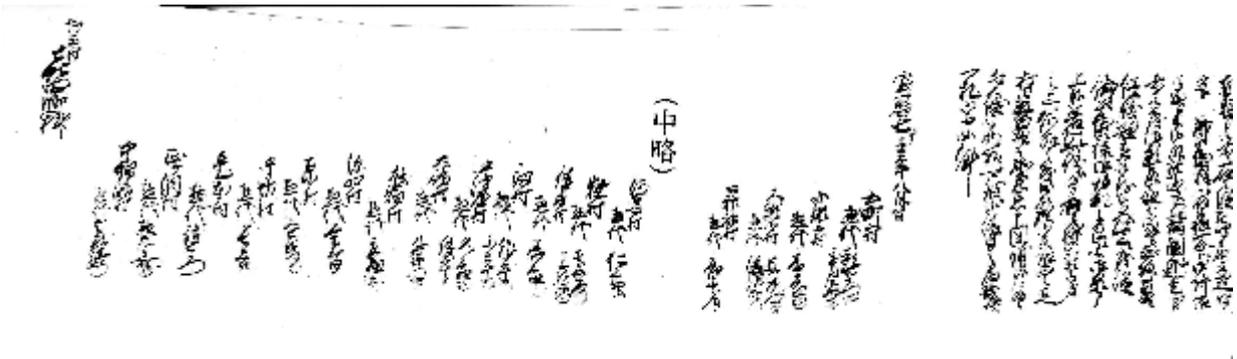
鷺見大鑑 (系図部分一部)

## 市指定有形文化財(古文書) 宝暦騒動関係

### 島村家文書

平成7年12月21日 長谷川 義朗 氏所有 越前市上太田

宝暦4(1754年に始まった宝暦騒動の農民(宝暦義民という)の中で首謀者クラスと思われる切立村喜四郎に関わる古文書がその子孫である島村家に所蔵されている。訴訟の下書き、写、判決の写、その他数点ある。



切立村喜四郎古文書(御願申一札之事)一部

## 市指定有形文化財(彫刻) 円空仏薬師如来坐像

平成元年8月1日 上村 修 氏所有 高鷲町大鷲

延宝7(1679)年頃の作と推定される。裏側と台座底に梵字の墨書が有り、また裏側には斜刻線が9本もあって、この頃の円空作としては珍しい。円空仏は高鷲町にはこの一体しかなく、大変貴重なものである。しかし、なぜ上村氏宅にあったのかは定かでない。円空は、寛永9(1632)年美濃国は竹鼻上中町に生まれたという説がある。幼くして仏門に入り、行基菩薩、尊栄大僧正を尊び、その教える道を学び、全国至る所の霊山において修験道の道を修行し、その間富士山の浅間神社に山籠もりし、百日の祈願に入る。満願の夜、天地鳴動の中に尊い大権現が現れ、一丁の鉦を与えられ、「此の鉦にて仏像を造り大衆に信仰の対象として祀らせ、庶民を信仰にて救済せよ」と告げられ、円空はこれをうやうやしく拝受し、早速下山して全国各地を行脚し、その間12万躰の仏像を造り、庶民に祀らせた。その高德を時の帝が聞き、上人号を円空に贈ったという。晩年、関の弥勒寺にこもり、元禄8(1695)年入定した。



円空仏

木造(桧)、像高10cm、巾5cm、台座4cm、厚み2.1cm

## 有形文化財(歴史資料) 西洞古地図

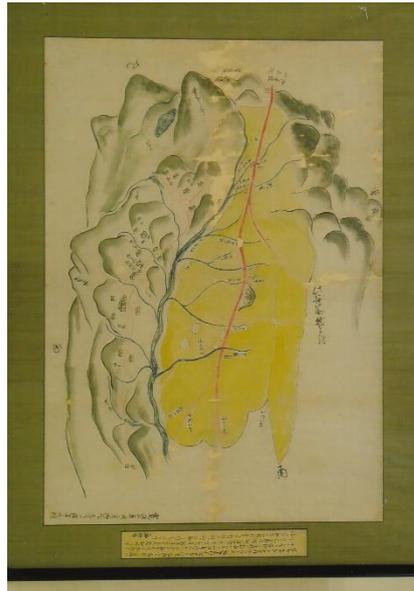
平成7年12月21日 西洞自治会 所有 高鷲町西洞

西洞地区の古文書の中に江戸時代の西洞の古地図がある。

寛政2(1790)年戊2月、御上江差上ヶ候絵図面控、とある。当時の西洞の家の配置、山、川、道路、地名を知る上で貴重な絵地図である。特に四本杭の位置が濃飛国境に明示されていてそれを実証する資料として重要である。地名として、中丁(中将)、御高札、すヶ谷、案事ヶ峯等がある。

### 【西洞村山論絵図について】

西洞古地図



## 市指定有形文化財(歴史資料) 三ヶ村絵図

平成7年12月21日 三島 道雄 氏所有 高鷲町大鷲

正ヶ洞地区にあった三ヶ村絵地図とほとんど似ている。何時描かれたものか分からないが、おそらく江戸時代後期に作られたものであろう。鮎走、正ヶ洞、中切村が描かれている。特に鷲見忠左衛門の豪邸や中切口番所がよく分かり、歴史を実証する上で貴重な絵地図である。今は、家人が表装して掛け軸となっている。



三ヶ村絵図(鮎走村、正ヶ洞村、中切村)

## 市指定有形文化財(史跡) 浄勝寺遺跡

昭和31年9月29日 杉本典門 氏所有 高鷲町大鷲

浄勝寺境内及びその付近一帯から縄文時代前期・中期・後期・晩期の土器が発見されている。古老の話によると浄勝寺の北側に小山があつて、その山を引きならして境内を造ったといわれている。その小山が遺跡抱合地であつたと思われる。30cm程掘ると、石器や土器が出てくる。出土品には、打製・磨製石斧、石皿、石匙、石包丁、石錐、玉、

曲玉、石錘、縄文土器などがある。



浄勝寺境内



浄勝寺遺跡出土品

## 市指定有形文化財(書跡) 鷺見八景掛軸

平成元年8月1日 往明寺 高鷺町大鷺

往明寺に大幅の「鷺見八景の詠歌」一軸がある。これは、文化年間に富田新田を開墾した鷺見忠左衛門保隆の詠歌八首を大蔵大輔実仲が書き写したものと伝えられ、近江八景になぞらて高鷺村の風景を詠んだものである。書写の日付は戊辰仲冬日とあり、文化5(1809)年にあたる。その八首は次のとおりである。

- 三国山残雪  
三国山高峯の雪も春来ては 井の洞川の水まさりけり
- 往明寺の晩鐘  
春の日や行き来の道もあきらけき み寺の暮の鐘ぞさやけき
- 植松原の夜雨  
五月雨や日数ふるよは誰もこの うえ松原に袖くたらし
- 八百草落雁  
雁鳴きて寒きあしたや色かえん 八百草野べの四方の山々
- 鷺ヶ岳秋月  
布引の広野にみちて照るかげは 鷺の高ねの秋の夜の月
- 上野晴嵐  
雲きりも夜半の嵐にふきはれて 上野が原の夏の夜の月
- 天王淵帰帆  
寒き日も神の恵みのふちなれば 人を渡して帰る舟長
- 宮ヶ瀬の夕照  
風寒み冬の山本木の間より 夕日ぞ渡る宮ヶ瀬の橋



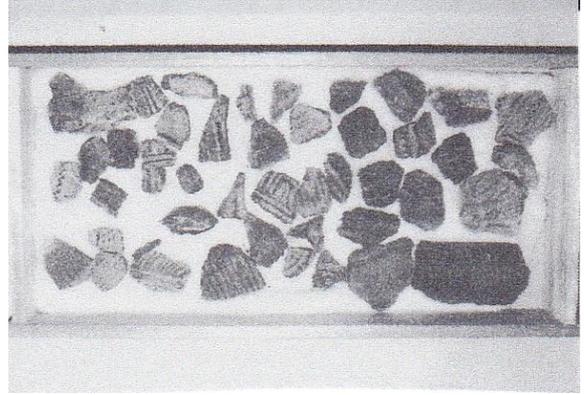
## 市指定有形文化財(史跡) 寺屋敷遺跡

昭和31年9月29日 森 弘美 氏所有 高鷲町鮎立

縄文土器(中期)、石器の出土遺跡である。日当たりのよい暖かい傾斜地にあって、季節的に居住したものと思われる。



寺屋敷遺跡全景



寺屋敷遺跡出土品

## 市指定有形文化財(史跡) 鷲見屋官林遺跡

昭和31年9月29日 高鷲村所有 高鷲町大鷲

縄文式土器、石器の出土地である。西洞川、鷲見川の合流点の内側にあって、日当たり良く、前は川、後背は山で木の実や獲物を得るには格好の場所である。石刀、石棒、石斧などが出土している。現在合流点にある堰堤によるダムによって一部埋没



西洞川と鷲見川の合流点にある鷲見屋官林

## 市指定有形文化財(史跡) 教願寺遺跡

昭和31年9月29日 小林 茂 氏所有 高鷲町鷲見

教願寺裏の山側斜面一帯で縄文時代の石器類や土器が出土した。圃場整備工事のための発掘調査が平成2年5月より行われ、その全体像が明らかとなった。その結果約5000年前からの複合した縄文の遺構や出土品が多数発見された。遺跡はその後埋め戻され、現

在は耕地になっている。

(遺構) 住居址や炉跡などのほか、円形石列を中心とする共同墓域の一部がある。また、巨石を中心に敷石状の遺構が広がり、その近辺で火の痕跡である厚さ10cmの土層が認められ、その南側では高さ80cmの立石など祭祀的色彩の強い遺構が数多く見られた。調査範囲の中央が谷になっており、小川を取り込むような形で集落が営まれていたようである。居住空間と祭(埋葬、儀礼等)の空間がその領域を異にしているようである。



住居址



石組炉

(遺物) 石器、土器類 4 万点余

○土器：中期の土器が主であるが、後期、晩期のものも含まれる。北陸系の土器の文様に似たものが目立つ。東日本系のものも見受けられ、当時の交流の広さが分かる。

○石器類：数多くの下呂石の剥片とともに石、石匙、石錘が出土した。また、石核、打製・磨製石器、石皿、叩石、切目石錘なども出土している。

○祭祀関係：石棒、石刀、石冠、板状土偶

○装飾品：石製垂飾、玉



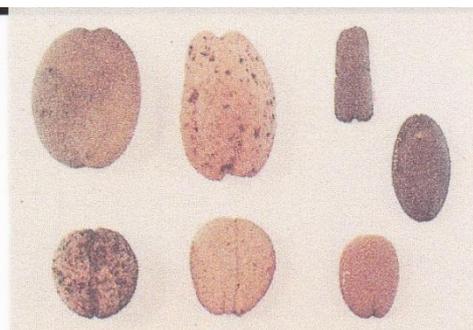
壺復元(東海系)



土器破片



出土した石鍬



出土した石錘

# 市指定有形文化財(史跡) 鷺見城跡

昭和31年9月29日 上村 順二 氏所有 高鷺町大鷺

鷺見郷を治めた鷺見氏ゆかりの城である。築城年代は定かでないが、「鷺見家史蹟」によると永暦元(1160)年初代鷺見頼保が築城したと、また「鷺見大鑑」によれば建長5(1252)年8月三代家保の晩年であると、さらにもう一説には承久の乱の頃に築城されたという説があるが、定説はない。しかし、麓から95mのところ(標高645m)にある鷺見城は、中世山城の原型を良く保たれ、慶長5(1600)年鷺見忠左右衛門が八幡城の戦いで戦死するまでこの地を治めた鷺見氏の居城であった。

城山東側の大手道からいくつもの出丸や曲輪跡等を経て本丸入口部分に着く。ここは後代になって発達した枡形門の前駆的工法と考えられる形跡が有り、本丸曲輪は、東西54m、南北は西側14m、東側25mの四角形になっている。やや高くなっている西側に建物跡と思われる川石、東西両側に幅3~4mの土塁跡が見られる。なお、現在西の丸部分に鷺見神社が建立されている。



鷺見城址



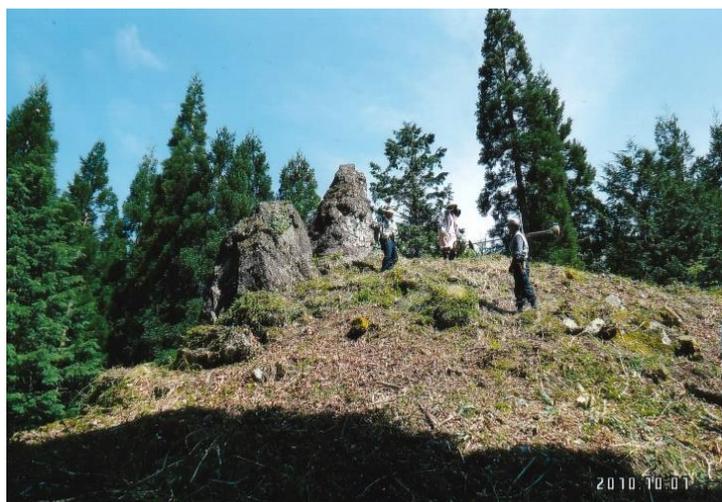
鷺見城要図(林春樹作図)

## 市指定有形文化財(史跡) 鷲見の立石

昭和31年9月29日 郡上市 所有 高鷲町鷲見

鷲見から鷲ヶ岳登山道の途中にある。古代から自然崇拝の一つである巨石信仰の遺跡である。山の神としてうやまい、近くに不浄なものは近づけないとしてきた。天明の頃(1781)、郡上藩の儒学者である江村北海が、その著書「濃北紀遊」の中で「有霊鷲弧峯特立三十丈奇秀無比赤松翠柏、不仮寸土而生茂隼鶴常巢其上」と記述し、昔から広く知られていた。

鷲見の立石は県道鷲見総則線立石キャンプ場からすぐの所にある。



鷲見の立石

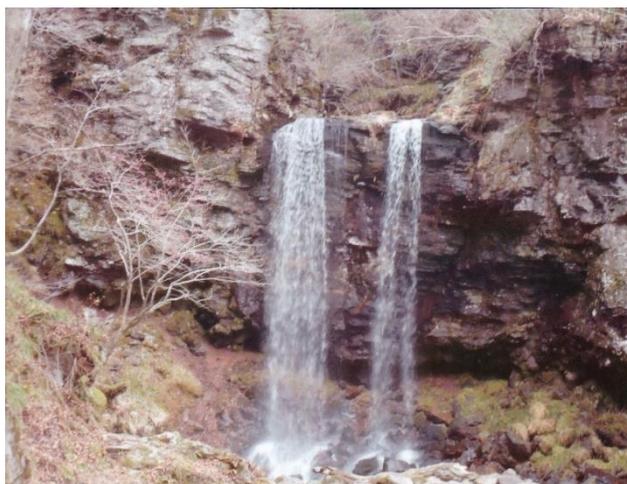
### 【鷲見の立石】

## 市指定有形文化財(名勝) 夫婦滝

昭和57年1月29日 国 所有 高鷲町西洞吠谷

長良川源流吠谷にあって、二本仲良く並んで流れ落ちていることからその名がついた。もともと駒ヶ滝といわれていたが、いつの日からかその姿形から夫婦滝と呼ばれるようになった。

いい伝えによると泰澄大師が、白山開踏探索の際、水垢離し行念された所といわれている。



夫婦滝

## 市指定有形文化財(名勝) 駒ヶ滝

昭和57年1月29日 国 所有  
高鷲町西洞

国道156号線の沿線で、夫婦滝入口より約300m手前にある。本来の名称は小滝であるが、いつの日か駒ヶ的と呼ばれるようになった。冬の厳寒時には凍結して行楽客を楽しませてくれる。

駒ヶ滝



## 市指定有形文化財(史跡) 奥の宮跡

平成15年12月11日 鮎立白山神社 所有 高鷲町鮎立二ノ瀬

元正天皇の時代、養老年中、泰澄大師白山開踏の際、この所を霊場として宮を建立したと伝えられる。内宮(奥の宮)、外宮(口の宮)、七堂伽藍が有り神仏両方の社僧と別当、神主を置き、社務所があった。東前谷、鮎走、正ヶ洞、中切、穴洞の5ヶ村の氏神として8月18日(旧暦?)を例祭としていた。一時は繁栄をきわめた。永禄年間に社殿を焼失した。明治41(1908)年堂ヶ洞白山神社(口の宮)に合祀された。なお、由緒書には養老元(717)年神社を創建としたとある。また社塔の石積みは「ししぼたん積」といわれ貴重な石積みであると『高鷲の文化財』73頁に記してあるが、どこにでもある石積みである。



奥の宮跡

## 市指定天然記念物 御弊スギ

昭和31年9月29日 西洞白山神社所有 高鷲町西洞

幹の周囲：6 m、樹高：34 m、樹齢：約350年

氏子は樹幹に注連縄を巻いて信仰し、大切にしている。祭祀が終わると使用した御弊などを樹の周りに納めた。

西洞白山神社は、その縁起によると初め月林の小丸山にあったが、長禄年中(1457)中村に豺狼が出て住民を悩ましたので氏子たちが神さまに祈願したところ「中村に遷座せよ」との信託があったので現在地に移した。以後、豺狼の害はなくなったという。



御弊スギ

## 県指定天然記念物 蛭ヶ野高層湿原植物群落

昭和45年1月20日 郡上市 所有 高鷲町ひるがの・鷲見3カ所

平成26年2月追加指定 ひるがの1カ所

蛭ヶ野高原は大日ヶ岳の山裾で、安山岩の溶岩台地の上にできた標高900m内外の高層湿原である。地質時代には湖であったと思われる。厚さ1.5m前後の泥炭層を形成し、pH5.5と酸性が強い土壌である。こうした環境に適応した植物が生育し、高山性湿原植物群落が発達した。

流水沿いには、ミズバショウ、コバイケソウ、ザゼンソウ、レンゲツツジ、ウメバチソウ、シュロソウ、ワタスゲ等が見られる。ミズバショウなど、中にはこの一帯が南限に近い自生地となっている植物もある。



蛭ヶ野高原スキー場隣の高層湿原植物群生地



蛭ヶ野高層湿原植物群落(ひるがの地区)

## 市指定天然記念物 切立白山神社のスギ

切立白山神社 所有 高鷲町鮎立 6.7m



切立白山神社の社叢に有り、地域住民によって大切に管理されている。

### 切立白山神社棟札

切立白山神社のスギ

## 市指定天然記念物 ひるがの高原ギフチョウ生息地

ひるがの地区 所有 高鷲町ひるがの 4カ所

天然記念物として郡上市重要文化財に指定（棲息地）されているギフチョウの保護巡回を郡上市観光協会ひるがの支部と協力して、5月から6月までの4週間にわたって行っている。5月は寒い日がおおく、ギフチョウの飛来はみられなかったが、6月になり晴天で暖かい日が多くなり、レンゲツツジが咲きほこるひるがの高原で、ギフチョウの飛来する姿が多く見られる。また、ギフチョウの棲息地であるカンアオイを採取する人やギフチョウを捕獲する人が多く、郷土の天然記念物を大切に保護する気持を持っていただきたい。



ギフチョウ



カンアオイ生息地（ひるがの白山神社）

**【初めてのギフチョウ】**

## 市指定天然記念物 お祓いのトチ

昭和57年1月29日 蔵田 さつ 氏所有 高鷲町西洞折立

幹周囲：4.98m、樹高:16m、樹齢：約270年

折立の北側の山斜面にある栃の大木である。昔から地域住民の信仰の対象として崇められていた。お伊勢詣でをしてお札をこの木の裏側の木の間(穴)に納めた。注連縄を張り尊崇していた。また栃の実は古来より食料としたので大切に保護された。



お祓いのトチ



【高鷲の文化財 清掃作業】

## 市指定天然記念物 糸姫のトチ

平成元年年8月1日 仲谷 甚作 氏所有 高鷲町西洞折立

幹周囲:6.08m、樹高：24m、樹齢：約230年

折立入口から西側へ入った所をドドメキといっている。その川縁に栃の巨木がある。

ドドメキには、明治の初め頃に製糸工場があった。糸引きの女たちは憩いの一時をこの栃の周辺で過ごしたであろう。この由来をとって糸姫の栃とした。



糸姫のトチ（高鷲村の文化財より）

## 市指定有形文化財(史跡)

### 正会成田碑及び旧飛驒街道跡

昭和52年12月20日 高鷲マス園 所有 高鷲町大鷲

正会整田碑は、高鷲マス園駐車場石垣の上にある。鷲見忠左衛門保隆・保教父子がこの付近を多額の私費を投じて開墾し、文化9(1812)年8月に工事を完成させ、富田新田と称した。特に、灌漑水路の掘削は難工事で、水源は大日ヶ岳中腹の大清水から引き千数百m幾つかのさこや尾を迂回して水田2町歩余りを造った。今でも「金造ヶ端」「けずり岩」などの地名が残っている。開墾工事中、保隆は現場を見回るに、常に駕籠を用いたといわれ、「かごどめの跡」があった。その上方に開墾地区全体を見下ろす小高い丘があり、松の根元の場所に保隆が建てた成田碑があった。現在は、昭和59年10月に国道の改良工事が行われ、旧飛驒街道、ししがき、かごどめの跡、碑の建立地はほとんど消滅し、成田碑は現在の場所に移動した。



成田碑

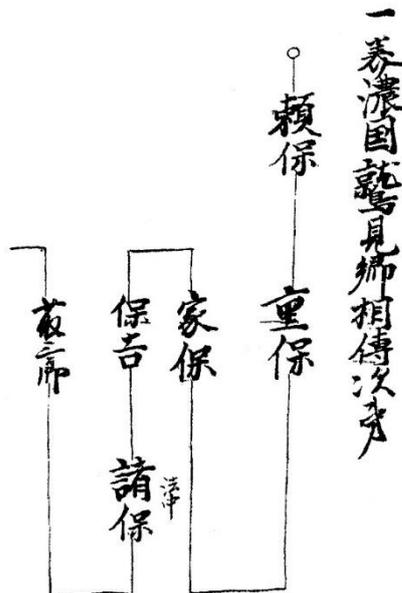
## 高鷲町にある指定外文化財

### (古文書)鷲見郷相傳次第

裕孝司氏所有 高鷲町鷲見

鷲見氏の系図に始まり、鷲見郷相傳のことが書かれている。文末に建武年間の記述があることから建武(1334)以降にかかれたものである。

【[鷲見大鑑原文と翻刻](#)】



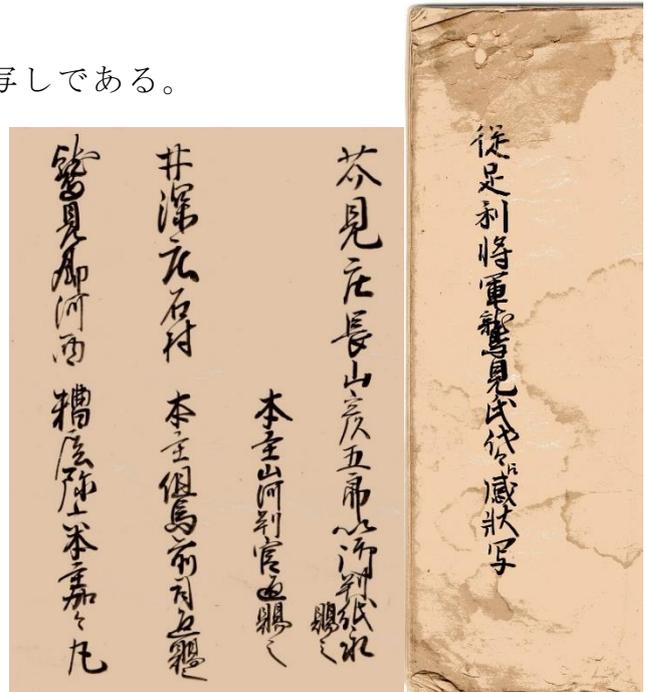
# (書籍)足利将軍鷲見氏代々江感状写

長善寺所有 高鷲町正ヶ洞

足利将軍から鷲見氏への感謝状と軍忠状の写しである。

[長善寺文書原文 従足利将軍感状写](#)

[長善寺文書の翻刻と読み下し](#)



# (書籍)鷲見白山神社由来書

裕孝司氏所有 高鷲町鷲見

三島勘左衛門正英は庄川一色の人で文筆の達者な人であった。時たま鷲見にやって来て、民家に逗留し、庄屋鷲見市兵衛貞啓の遺書（享保10年に書かれたもの）を45年後の安永8年(1779)に三島勘左衛門が委嘱を受けて改めて書いたものである。原文は漢文で書かれている。鷲見白山神社の由来や、薬師堂の由来が書かれている。



[「呼子鳥」と三島勘左衛門](#)

## (書籍)鮎走村由緒書

森弘美氏所有 高鷲町鮎走

宝暦3(1752)年庄屋惣右衛門、組頭甚右衛門によって書かれたもので、鮎走の由来などが書かれていて真疑は別として面白い。

大雨にて満水となった庭に鮎が集まっていたのを生け捕りにして天皇に献上した。それにより鮎走と名付けた等、長文である。鮎走は相走、逢走とも書く。

帝の御宇小宮人連人々といふ  
もの帝の御見遊り方依  
て流籠としてとて母小隠  
退して歌書を撰して  
活生と書みし人形も  
流籠小鮎多昌して三十七代  
の帝孝徳天皇の御宇流籠  
の流籠といふ思儀も  
鮎勇其庭中下遊の書  
りし其書を生かす都  
小車軟しけるゆへに帝  
大子孫も色流籠といふ書  
と鮎をりし高時僧道昭  
とよもの流籠といふて  
佛者を流籠もいふて村  
のいふ鮎者なりて既  
小松五人佛門に入り居  
まゝに流籠といふは時  
帝の御宇の命勅も依て

【[鮎走村由緒書原文](#)】 【[鮎走村由緒書翻刻](#)】 【[由緒略記](#)】

## (書籍)穴洞村白山神社略縁起書

鷲見尚武氏所有 高鷲町中洞

穴洞白山神社は今は大鷲白山神社に合祀されているが合祀前は穴洞瓢が野った。神社の縁起書には、白川郷帰雲城主内ヶ島氏理が鷲見郷へ攻め入ったこと。氏理たちが勝負かなわずとって引き揚げたこと。そんなことから正会と言うのは総返り野、すみや尾崎もその後より取り手が尾といい、瓢が野はひがごと伏兵が野と言ったことが始まりであると書いてある。縁起の記録であるから真疑は別として面白い。なお天正13年酉11月29日亥子の刻大地震にて内ヶ島氏理の城(帰雲城)崩落したことが記されている。この天正の大地震であって、帰雲城、西洞の折立。明方のみぞれの3カ所が一時に崩落した。これを書いた人は、鷲見弥平次保能である。元和2(1616)年に書いている。



【[穴洞村氏神壘縁記](#)】

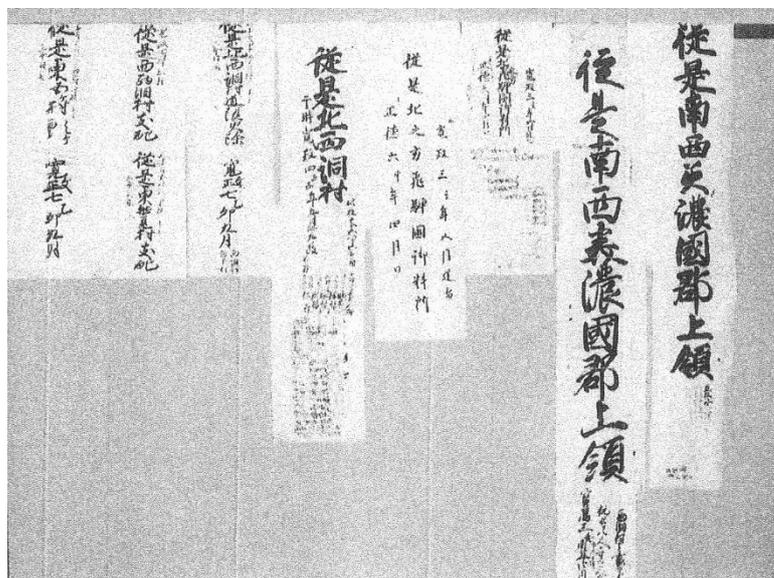
## (書籍)四本杭に関する古文書

高鷲町西洞区

鷲見上野を越えて高山市莊川地区野々俣に通じる道路上に角材の標柱があった。今は朽ち果てて現存しない。それが四本杭であったといわれている。

四本杭は、昔の濃飛国境の標識であり、飛騨の天領と郡上藩領の境を表すもので重要視されてきた。杭の太さ、立て替えの年月、注記事項、柱の方向など規定が細かく決められていた。

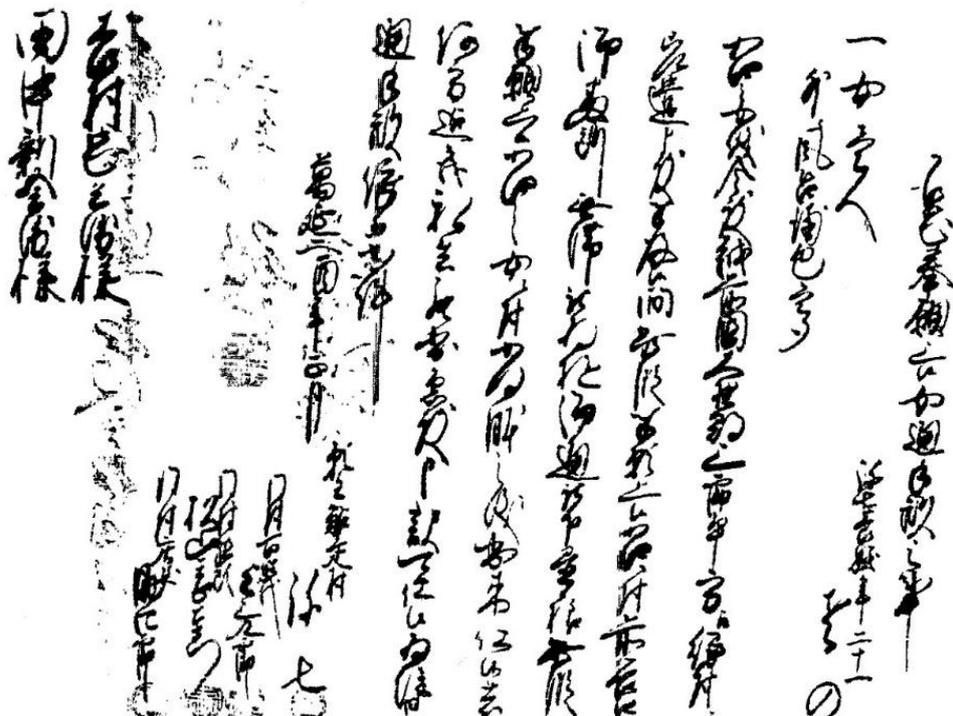
四本杭に関わる国境改めについての文書が西洞地区に保管されている。



## (書籍)女通手形

森弘美氏所有 鮎走

鮎走村弥七の養姪「さく」が越前国大野郡、三郎平方へ嫁入りするにつき通行手形を代官所へ願い出て許可を貰う文書である。万延2(1861)年のものである。



## (史跡)経塚

高鷲町明谷

一心斎という坊さんが、切立明谷の某家に逗留され、布教活動のかたわら、法華経の如来寿量品というお経を一つの石に一字ずつ刻みながら念仏を一遍称えて三年がかりで刻み終えて、ここに埋めたと言われている。万延元庚申年(1860)六月朔日の年号がある



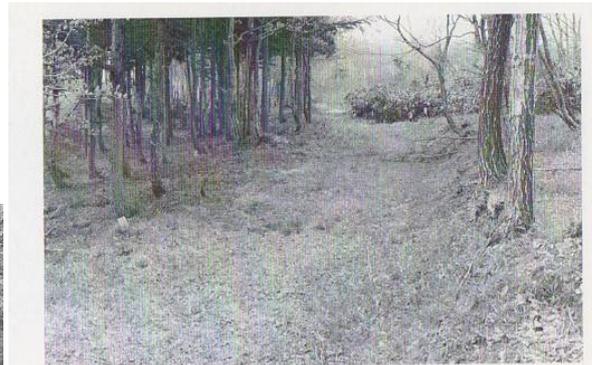
## (史跡)旧白川街道跡

西洞地内

しらかわかいどうは飛驒街道とも言う。白鳥から大鷲～庄川～白川へ通ずる。西洞地内にその痕跡はある。



白川街道植松峠



**四本杭**  
白川街道一谷を上り、上野高原を縦断し、追分け、いよいよ飛驒と境を接する所に国境の標として、四本杭を打った所がある。僅か昔の面影を残しているが、道迎る人もなく杭を打った跡らしき所に、三つ四つ石が転んでいる。

## (史跡)旧高山街道跡

鷺見上野地内

八幡より高鷺町大鷺で分岐し、鷺見～荘川村野々俣～町屋～清美～高山へ通じる。途中白川郷へも通じるので白川街道とも言われた。鷺見上野地内にその痕跡がある。



## (史跡)旧高山街道道しるべ

小林茂氏所有 高鷺町鷺見

小林茂氏宅横に旧高山街道がある。  
その道路上に分岐点が建てられている

道しるべ

右ハむら 左ハひだたか山 道 善光寺

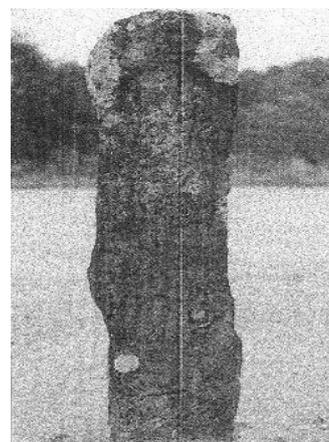


## (史跡)鷺見上野道しるべ

鷺見上野区

鷺見上野ため池の東側の三叉路に建てられている以前旧道にあったものを移転。

道しるべ 右は山みち 左にしぼら



## (史跡)木地屋の墓

西洞島田

国道より下野へ行く農道の右側の高いところに木地屋の墓がある。木地屋の屋敷は、下吠の奥(大日ヶ岳山麓)にあった。言い伝えによると、宝暦五(1755)年の冬、大雪のためほとんど餓死した。木地屋の文左衛門は「私が死んだあとは、人通りのある道の傍に墓をたててくれ」という遺言によって村人達が白川街道の傍に建てた。

高鷲村にはこの大日ヶ岳の中腹から山麓にかけて木地屋がいて、椀・盆などを作り生業を営んでいたことが伺える。墓には宝暦五年の年号が刻まれている。



## (史跡)木地屋の弥六とおとめの墓

鷲見地内

県道鷲見惣則線の路傍にある。江戸時代の中頃、この奥(鷲ヶ岳の山麓)に弥六という木地屋が住んでいた。その子供に一六歳になる「おとめ」と言う美しい娘がいた。行商人の更気清右衛門と恋仲になった。翌年の春また来ると言っていたが清右衛門がやってくるので悲嘆のあまり更気が池に身を投げて死んだ。清右衛門はこのことを聞き自分もその後を追った。

おとめの墓と同じ所に親の弥六の墓がある。文化一三戌年の刻字がある。



おとめの墓



弥六の墓

[広報「高鷲の文化財」特別号「伝説編」](#) [さらけが池](#) p 5

さらけが池



## (天然記念物)烏帽子掛け岩

鷺見地内

県道鷺見惣則線から広域農道に入り約400m行った所の左側路傍にある苔むした巨石がある。伝説によると鷺見頼保一行が鷺退治の途中休憩したとき烏帽子をこの岩に掛けたといわれている。そのことからこの名前が付けられた。岩の形を見ると烏帽子に翌似ているので誰となく言うようになった。



## (史跡)中切口番所跡

穴洞地内

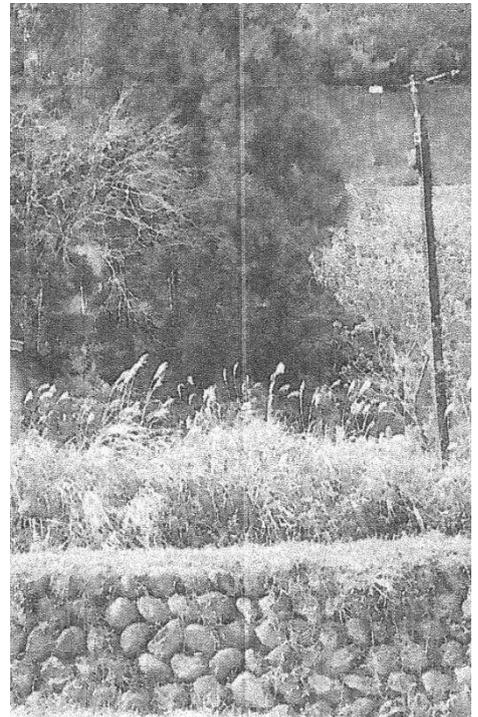
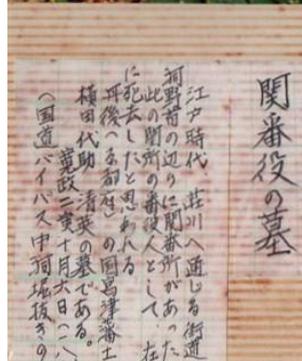
白川街道の中切、野首に口番所があった。通行人改め、税の取り立てなどを行った。

この番所の役人の墓が中洞の往明寺にある。墓石には、丹後の国宮津藩士 横田代助清英寛政二寅一〇月六日(1790)と刻字してある。

広報「高鷺の文化財」

**30号**

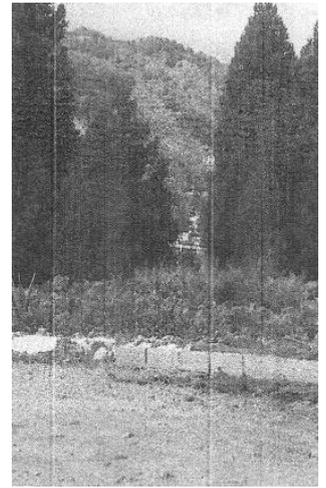
(鷺見八景・横田代助墓碑)



## (史跡)向鷺見口番所跡

向鷺見地内

向鷺見岩高の高山街道にあった。長良川を挟んで中切口番所に対して設置されていた。昔はこの街道が主であったので交通量も多く重要な番所であった。

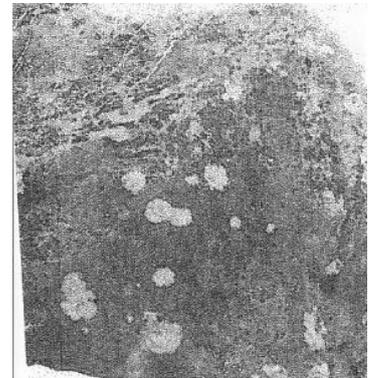


## 【巨石】

(言い伝えによると、以下の三つの石は吠谷のただ渚より、だだ婆が願いをかけて背負って置いていったと言われている。またもう一説によると、駒ヶ滝に流れ込む当たりの渚より髭を生やした大男が巨石を背負って歩いていた。何処へ持って行くのかと聞くと、ただ「だだあ」と言うだけなので背負ってきた渚をだだ渚と言われている。この三つの石がよってきて一点に集まると此の世は滅するとか?)

## (名勝)大石

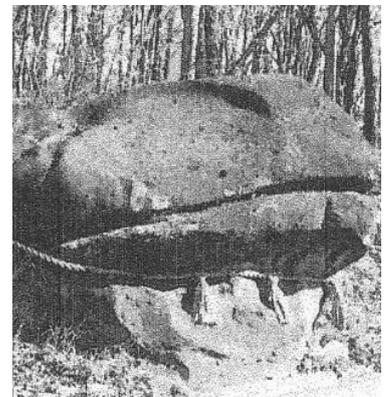
西洞舟サコ



## (名勝)鰐石

蛭ヶ野やまびこロード沿い

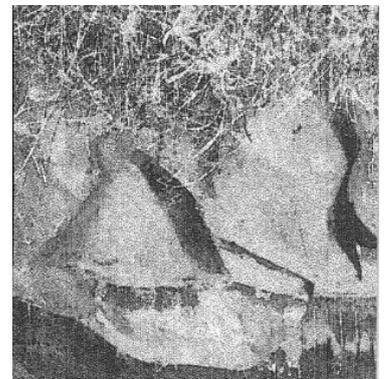
石の割れ目は荷縄のあとであると言われている。



## (名勝)みのこぶ石

蛭ヶ野サンメンバーズ裏

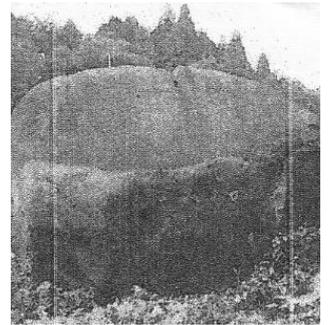
だだ婆が蓑を着て背負ってきたので石に蓑のあとがついたとも、また、大男が背負って歩いていたが日暮れになり蓑をかぶせていったので蓑のあとがついたとも言われている。



## (名勝)大城石

鷺見

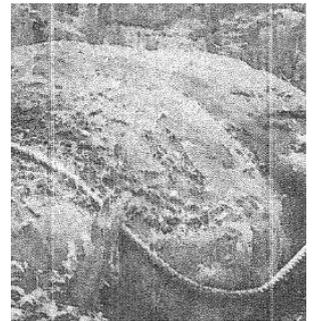
自然石、天明の飢饉の時、より親子がここまで辿り着き飢え死にしたと伝えられている。



## (名勝)大石

鷺見上野

自然石



## (名勝)花立石 (天狗岩)

向鷺見 八百僧

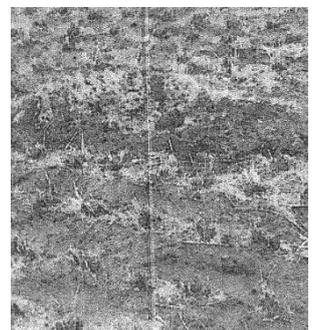
古くより八百僧は景勝の地とされていた。この岩に天狗が住んでいたといわれたり、また岩を背に僧が庵を結び修行したと伝えられている。



## (名勝)女郎石

向鷺見

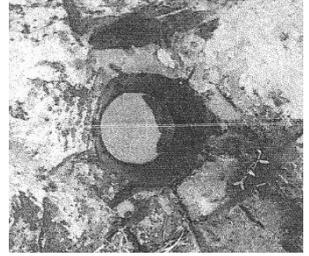
女郎がこの石に立ちすくんでいたとか、みだりに登ると雨が降り出すと言われている。



## (名勝)河狼の茶釜

鮎走立壁の川ぶちの岩

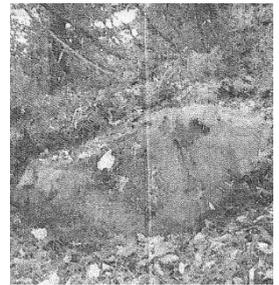
自然現象にてつくられたもの茶釜のような形をしている。



## (名勝)天狗岩

鮎走堂ヶ洞の裏山

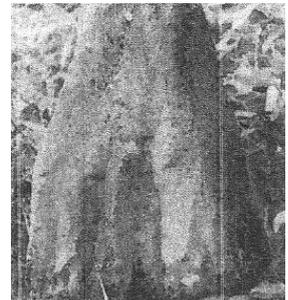
昔、この岩を取り囲んでお日待ちをした。また、泰澄大師が腰掛けられたと言う伝説がある。



## (名勝)袴石

鮎走小洞

自然石、袴の形をしている。泰澄大師が袴を脱ぎ捨てられたという伝説がある。



## (名勝)珍石

向鷲見中沢

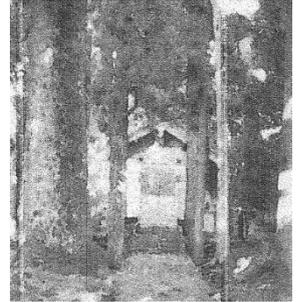
男根石とか安産の神様とも言っている。人の手が加えられたと思われる形跡がある。



## 西洞白山神社社叢

西洞白山神社

樅の木二〇〇年以上が一本、杉の木百年以上が数本あり、巨木が生い茂り様相が良い。



## (天然記念物)目あての松

蛭ヶ野やまびこロード沿い

この松を目当てに旅人は蛭ヶ野、上野、荘川方面を往来した。



## (名勝)蛇頭石

向鷲見集会所前

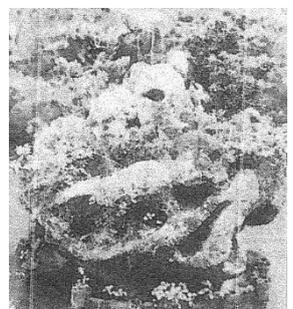
蛇の頭に似た自然石、説話の庄左の後妻の化身と伝えられている。林庄松氏宅付近にあったものを現在地に移動。



## (石仏・墓石等)白山石

正ヶ洞長善寺

白山案内の模型として彫刻されたもの。御神体として尊崇されている。



## (石仏・墓石等)おとめの墓

鷺見平頭

木地屋の弥六の娘おとめの墓。越前の行商人更気清右衛門との悲恋の物語である。



## (石仏・墓石等)弥六の墓

鷺見 平頭

木地屋弥六の墓



## (石仏・墓石等)お手付き石

鷺見白山神社境内

上面に手の形をした模様がある。自然石で神石として安置してある。



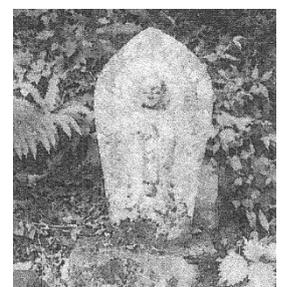
## (石仏・墓石等)大滝地藏菩薩

鷺見大滝橋のたもと



## (石仏・墓石等)大滝地藏菩薩

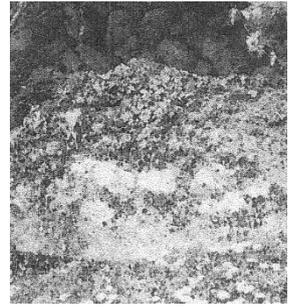
鷺見大滝橋のたもと



## (石仏・墓石等)やませの墓

鷺見羽落旧道

自然石、天保の飢饉の時、飛騨から来た松蔵という人がここまで来て飢えて死んだ。



## (石仏・墓石等)地蔵菩薩

鷺見袖ヶ洞

嘉永7年甲寅年8月立之



## (石仏・墓石等)地蔵菩薩

鷺見エビス峠

嘉永7年寅年 西村某、三村某



## (石仏・墓石等)地蔵菩薩

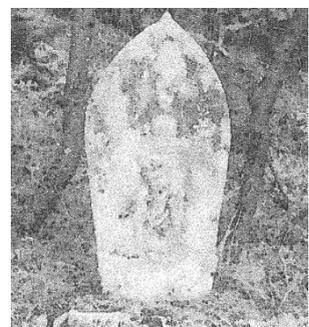
鷺見エビス峠



## (石仏・墓石等)地蔵菩薩

鷺見上野

嘉永7年立之、3対1拠にある。



## (石仏・墓石等)馬頭観音菩薩

鷲見上野

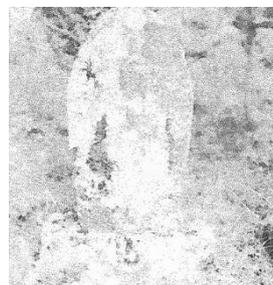
馬頭観世音 五号組 六号組 庵了書



## (石仏・墓石等)馬頭観音菩薩

鷲見上野

道行く人の安全を願う。



## (石仏・墓石等)地蔵菩薩

西洞折立」

安永五年四月二〇日



## (石仏・墓石等)慈母観音菩薩

西洞折立

狼に子供がさらわれたのでその供養に観音様を祀ったと言われている。



## (石仏・墓石等)駕籠訴人の墓

西洞折立

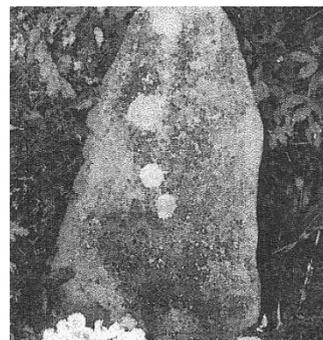
明治九年辰年五月六日 地蔵菩薩 宝暦義民 孫次郎の墓



## (石仏・墓石等)乙女の墓

西洞中将

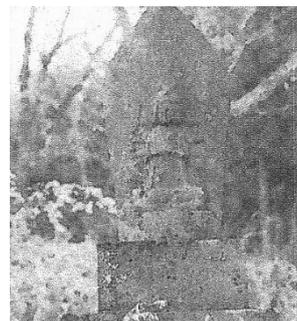
自然石、越前朝倉氏縁者の乙女が落ち延びて来てここで生涯を終わったと伝えられている。



## (石仏・墓石等)千手観音菩薩

ひるがの 国道莊川境

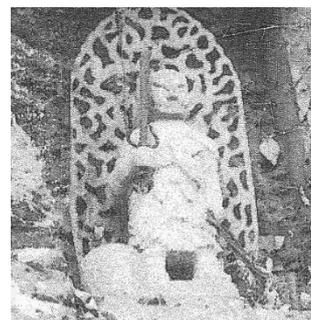
国道一五六号大修繕事業として大白川電力株式会社 伊川技師  
寄進 世話人中屋榮一



## (石仏・墓石等)不動明王

西洞駒ヶ滝

国道一五六号線改修工事が無事故だったことを感謝して祝った



## (石仏・墓石等)不動明王

西洞神中

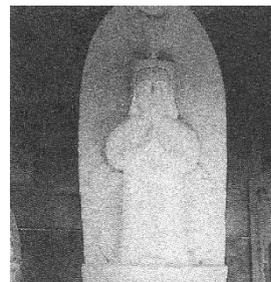
この不動尊と馬頭観音一体とを、国道一五六号線中将の祠堂に  
安置してあったのをここへ移転した。



## (石仏・墓石等)馬頭観音菩薩

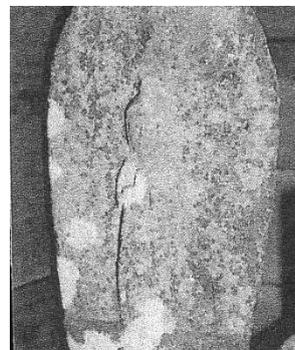
西洞神中

大正一一年



## (石仏・墓石等)馬頭観音菩薩

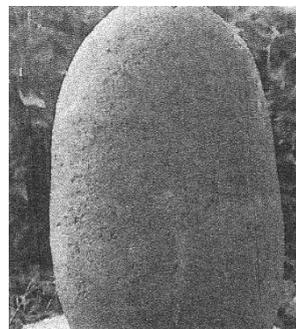
西洞神中



## (石仏・墓石等)駕籠訴人の墓

西洞中村

自然石、無刻 宝暦義民の墓と伝えられている。



## (石仏・墓石等)地藏菩薩

西洞節谷 嘉永三年

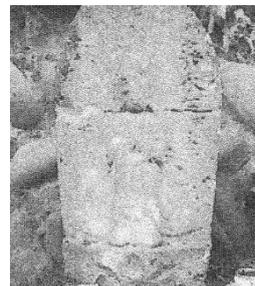
頭の部分が掛けている。



## (石仏・墓石等)馬頭観世音菩薩

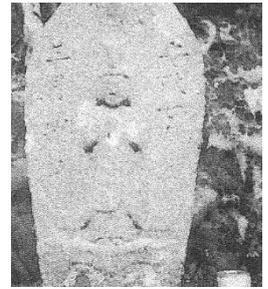
中洞 穴洞 嘉永七甲寅年八月下旬

穴洞旧道脇に石仏六体（釋名の入った個人の墓らしきものを含む）  
並んで安置してある。



## (石仏・墓石等)馬頭観世音菩薩

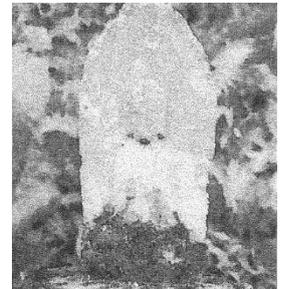
中洞 穴洞 安政七甲年三月朔日



## (石仏・墓石等)薬師如来

中洞 穴洞

住民の信仰厚い薬師如来である。



## (石仏・墓石等)地藏菩薩

正ヶ洞 通入寺境内 享保戊



## (石仏・墓石等)薬師如来

正ヶ洞 通入寺境内



## (石仏・墓石等)地藏菩薩

正ヶ洞 高正館水源地

説明 水神様としてまつてあ る。	刻銘 明和四 七月日 鷺見氏	寸法 (高さ)五七cm (幅)二九cm	所在地 正ヶ洞 高正館水源地	
				(番号) 45

## (石仏・墓石等)不動明王

正ヶ洞 高正館水源地



## (石仏・墓石等)地蔵菩薩

正ヶ洞 正ヶ洞 共同墓地内



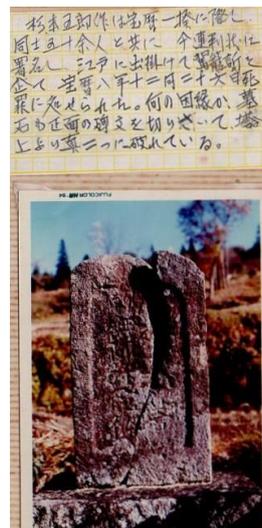
## (石仏・墓石等)馬頭観世音菩薩

向鷲見 小学校校庭隅



## (石仏・墓石等)杉本五郎作の墓

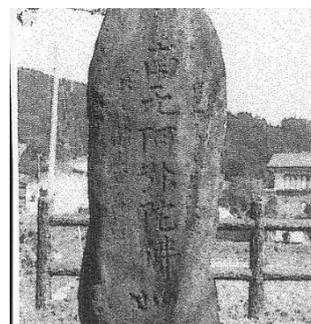
向鷺見 杉本栄吉氏墓地



## (石仏・墓石等)鷺見家供養碑

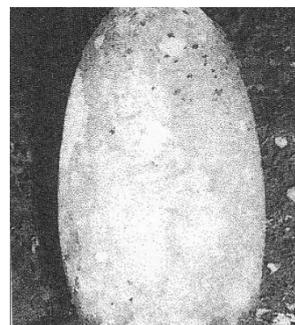
向鷺見 鷺見氏居館城跡 南無阿弥陀仏

中洞鷺見忠左衛門が向鷺見に享和元年建立したのを現在地に移転した。



## (石仏・墓石等)八大龍王

向鷺見 上の山 玉宝庵 八大龍王 哥竜水 (裏面) 文化八年 末年 恐るべし山田に灌う水上ハ 民を恵ミの鷺の里 六月吉日



## (石仏・墓石等)観音菩薩

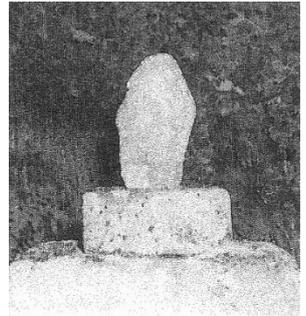
鮎走 大洞 天保十三寅 立之白山 齒の観音様と同じ所に安置。元は集会所橋のたもとの丸山にあった。



## (石仏・墓石等)歯の観音菩薩

鮎走 大洞 天正元甲子歳

土地の人達は歯が痛むと拝んだという。全体が歯の形をしている。



## (石仏・墓石等)地藏菩薩

鮎走 大洞 白山神社境内



## (石仏・墓石等)達摩石

鮎走 大洞 白山神社境内

自然石、達摩大師に似ている。



## (石仏・墓石等)神様の腰掛石

鮎走大洞 白山神社境内

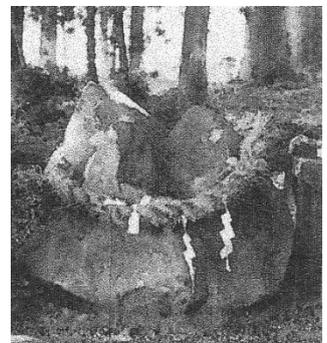
自然石。腰掛の形をしている。



## (石仏・墓石等)白山石

鮎走大洞 白山神社境内

自然石。白山の形をしている。



## (石仏・墓石等)地蔵菩薩

鮎走 砥坂 享保十九歳寅六月

元は下地下立壁の近くの泉水のほとりにあったのを移転



## (石仏・墓石等)地蔵菩薩

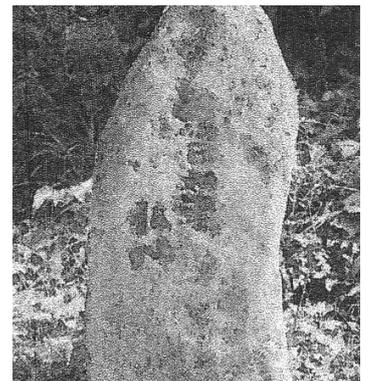
鮎走 砥坂



## (石仏・墓石等)大日如来

鮎走 砥坂

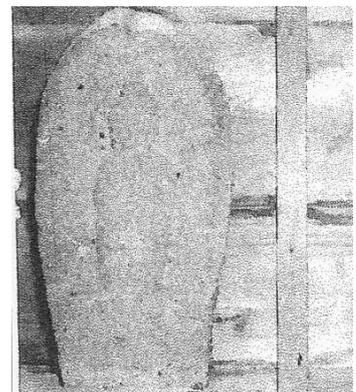
大日如来仏心



## (石仏・墓石等)観音堂仏

鮎走 二階禿 宝暦十二年天十月十七日

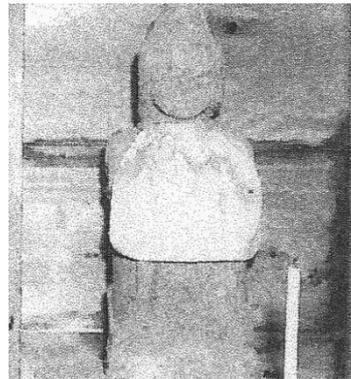
観音堂に安置。



## (石仏・墓石等)観音堂仏

鮎走 二階禿

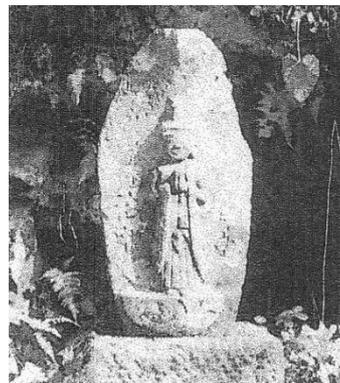
観音堂に安置されている。



## (石仏・墓石等)馬頭観世音菩薩

切立西替入口 . . . .月建立 施主治助

血取場跡の前に建ててある。



## (石仏・墓石等)地藏菩薩

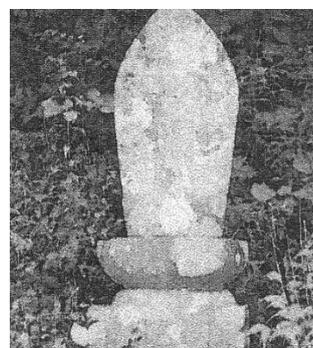
切立 鮎走街道路傍 島村比那造



## (石仏・墓石等)地藏菩薩

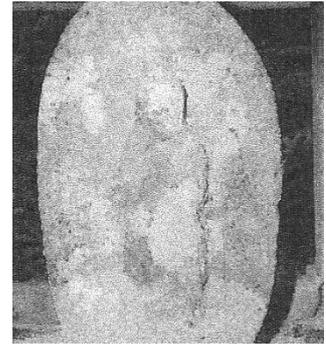
切立 中山国有林 文化元年辛酉十月之建

梵字が刻んである。



## (石仏・墓石等)馬頭観世音菩薩

切立 中山峠 文化五年八月吉日



## (石仏・墓石等)馬頭観世音菩薩

切立本村～西替の路傍 明治二十三年八月

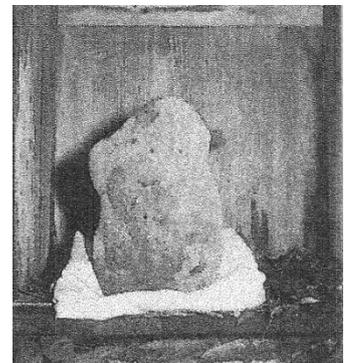
蓑島九郎右衛門さんが自分の家の馬が川に落ち死んだので  
その供養のため建てられた。



## (石仏・墓石等)地蔵菩薩

切立 旧阿多岐街道

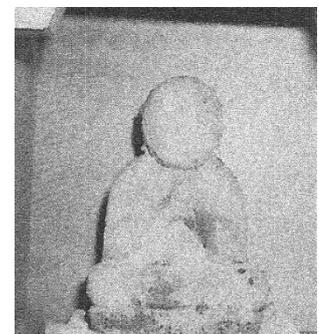
阿多岐境の路傍



## (石仏・墓石等)地蔵菩薩

切立広域農道阿多岐境

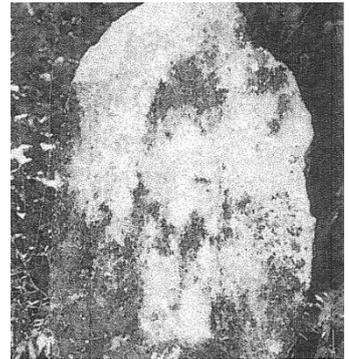
旧道の阿多岐境にあったのを移転する。



## (石仏・墓石等)馬頭観世音菩薩

切立旧恵利美～明野線路傍

目当て松の木の下に安置



## (石仏・墓石等)地藏菩薩

切立西替

